



「隣に来た秋」

令和 5

年度版

2023

知りたい！

ひと

まち

自然

印西の環境



令和5年度版 印西市環境白書 概要版

千葉県
印西市



プラスチック資源循環

プラスチックは、軽くて丈夫、衛生的であるなどの理由から、ペットボトルや食品のトレー、カップめんや持ち帰り弁当の容器、レジ袋、電気製品や自動車の部品など、さまざまな製品に幅広く利用されています。

一方で、その優れた耐久性・安定性ゆえ、自然界で分解されにくいという性質があることから、不適切に廃棄されることによる海洋ごみ、焼却することで温室効果ガスが発生することによる地球温暖化、原料となる石油資源の枯渇などの問題が取り上げられています。



海洋ごみ



地球温暖化



資源の枯渇

プラスチック資源循環に向けて！

環境省では、「プラスチックは、えらんで、減らして、リサイクル」を合言葉に、事業者、消費者、国、地方公共団体等のすべての関係主体が参画し、相互に連携しながら相乗効果を高めることで、プラスチックの資源循環を促進しています。日々の生活の中で「えらんで、減らして、リサイクル」に積極的に取り組みましょう。

えらんで	環境に配慮したプラスチック製品の設計を国が認定し、公表していきます。日々の買い物の中で、環境に配慮した製品を選択しましょう。	
減らして	必要な分だけ使用する、繰り返し使用できる製品を活用するなど、プラスチックを過剰に使用しないよう心がけましょう。	
リサイクル	プラスチック製品を資源として製造・販売事業者等が自主回収を行う取組が広がっていきます。積極的にプラスチック製品の分別・回収を行いましょう。	

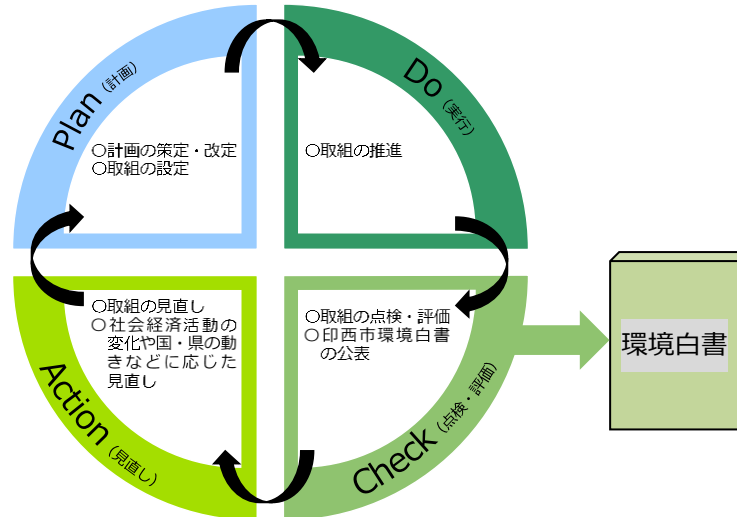
プラスチック資源循環について詳しく知りたい人は…

環境省：「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の普及啓発ページ
<https://plastic-circulation.env.go.jp/>

位置づけ

印西市環境白書は、環境基本計画と庁内エコプランの年度ごとの取り組み状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様公表するものです。また、各種の測定データなどの市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。

令和5年度版の環境白書は、主に令和4年度の実績に基づき、作成しています。



第3次印西市環境基本計画に掲げる「将来環境像」と達成のための「5つの基本目標」

将来環境像

みんなでつくる 自然と暮らしが調和した
快適でやさしいまち いんざい

基本目標1 【自然環境】	豊かな自然の恵みを受け 潤いと安らぎを感じられるまちづくり	・・・2ページ
基本目標2 【生活環境】	安心で快適な ずっと住みたいと思えるまちづくり	・・・4ページ
基本目標3 【循環型社会】	限りある資源を有効に活用した 持続可能な美しいまちづくり	・・・6ページ
基本目標4 【脱炭素社会】	カーボンニュートラルの実現に向けた 地球環境にやさしいまちづくり	・・・8ページ
基本目標5 【人づくり】	パートナーシップを構築し 協働で環境保全に取り組むまちづくり	・・・10ページ

※第3次印西市環境基本計画は令和4年度から令和13年度までを計画期間としています。



基本目標 1

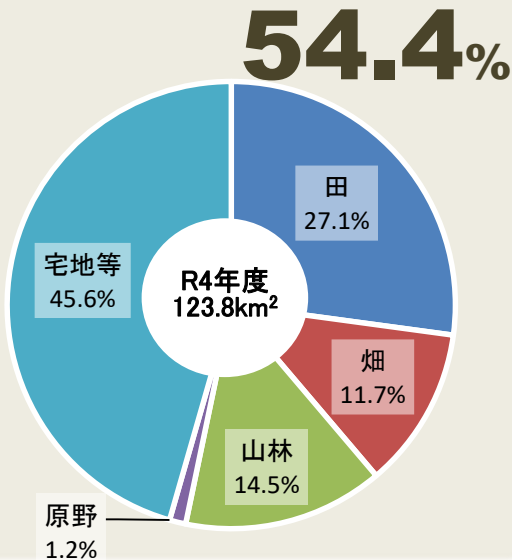
豊かな自然の恵みを受け

潤いと安らぎを感じられるまちづくり

谷津と台地を中心とした里山の保全

本市は農地や樹林地が多く、里山の緑に恵まれています。宅地開発や農家の後継者不足などによる緑の減少が心配されています。

● 田、畑、山林、原野の割合

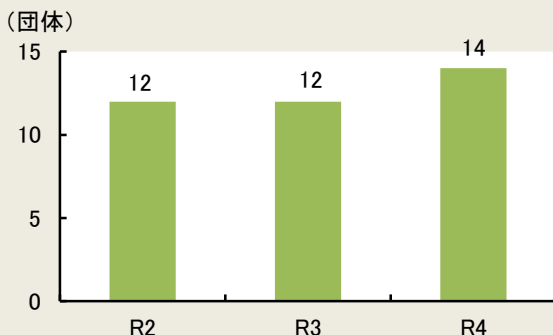


●樹林地・斜面林の保全

市内には人と自然との長年の関わり合いによって形成されてきた里山や谷津が多く残されています。この里山は樹林地、田畑、草地、水辺などいろいろな環境が混ざりあって、豊かな生態系を育む場としても注目されています。

市では、市民参加による里山保全活動の充実を図るため、市民活動団体が実施する里山関連の行事を支援しています。令和4年度の市内の里山保全活動団体数は 14 団体、市が実施した里山保全回数は 17 回でした。

● 里山保全活動団体数の推移



●農地の保全

農業は本市の主要産業であり、季節ごとの田園風景は市を代表する景観を形作っています。

本市の農産物を市内で消費する地産地消を推進するため、市内直売所に対して、加工促進及び販売促進に係る資材費の補助金交付を行いました。



▲ 農産物の地産地消を推進しています

生きものの生息・生育空間の保全

●生きものの生息・生育空間の把握

市内には、絶滅が危惧されている重要な種（注目種）を含む植物 967 種、動物 892 種が確認されていますが、近年は、カミツキガメなど、在来生物の生息・生育を脅かす恐れのある「特定外来生物」の占める割合が高まっています。



● 生きものの確認種数

分類群		確認種数 (注目種)	
植物		967	(55)
動物	哺乳類	10	(2)
	鳥類	100	(48)
	爬虫類	12	(10)
	両生類	8	(5)
	昆虫類	737	(39)
	魚類	25	(7)

令和2年度自然環境調査

●多様な生態系の保全

「いんざい自然探訪」は、子どもから大人まで楽しみながら環境を学ぶことができる自然観察会です。自然探訪を2回開催し、参加者数は延べ26人となりました。また、NPO団体との協働により、「子ども里山学校」を2回開催しました。



▲ いんざい自然探訪
アメリカザリガニを釣って生態系を守ろう

●水辺環境の保全

市では、水辺とのふれあいの機会を提供するため、県や流域市町と協力して水辺環境保全のためのイベントや河川の清掃活動を実施しています。

令和4年度は、手賀沼周辺において市民参加による湧水調査及び河川の水質・水生生物調査、ナガエツルノゲイトウの駆除を実施し、市民の皆様とともに良好な水辺環境の維持に努めています。



▲ 市民との協働で手賀沼周辺の湧水調査・河川水質調査を実施

暮らしと自然のつながりの確保

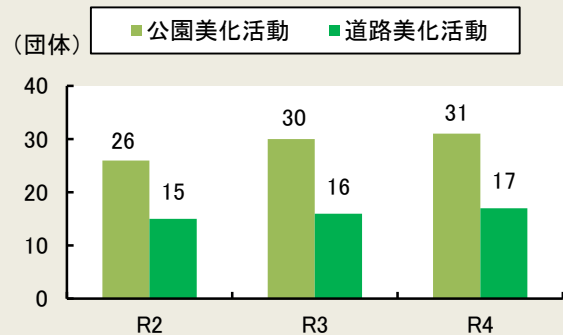
●自然と調和したまちづくり

市では、公園美化活動を行う団体に対し、清掃用具・花苗・種子等を支給するなど、各種支援を実施しています。令和4年度の公園美化活動の団体数は31団体となりました。

また、道路等を管理する団体に対し、除草・清掃に必要な用具の貸与やごみ袋・花種・花苗等の支給など、各種支援を実施しています。令和4年度の道路美化活動の団体数は17団体となりました。

●公園美化活動の団体数 ●道路美化活動の団体数

31 団体 **17** 団体



●歴史・文化の保全

市では、郷土伝統文化の継承・公開や史跡整備・活用事業などを通じて郷土意識の涵養を図り、社寺やその周辺に残る社寺林・屋敷林など本市特有の風景の保全に努めています。

市及び教育委員会では、貴重な文化財を火災などの災害から守るため、毎年、文化財防火デーに合わせて訓練を実施しています。令和4年度は、栄福寺薬師堂にて文化財防災訓練を実施しました。

緑や水辺を守り、自然と共生するために…

アクション!

- 観察会や勉強会などを通じて里山の現状や保全について理解し、維持管理活動に参加します。
- 低農薬や有機農業で栽培された農作物や地産地消を取り入れ、市内の農業を応援します。
- 生きものの生息環境の理解と保全に努め、むやみに生きものを傷つけません。
- 家庭で飼っている生きものや植物を自然界に放したり、植えません。
- まちに調和した景観保全活動に積極的に参加します。



安心で快適な

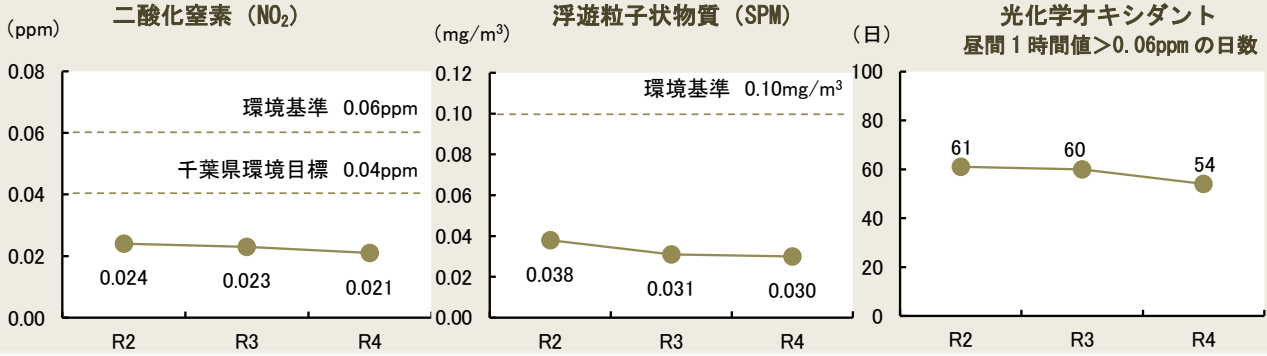
ずっと住み続けたいと思えるまちづくり

良好な生活環境の保全

●大気環境の保全

● 大気汚染物質濃度（高花測定局）

光化学オキシダント
環境基準超過日数 **54** 日

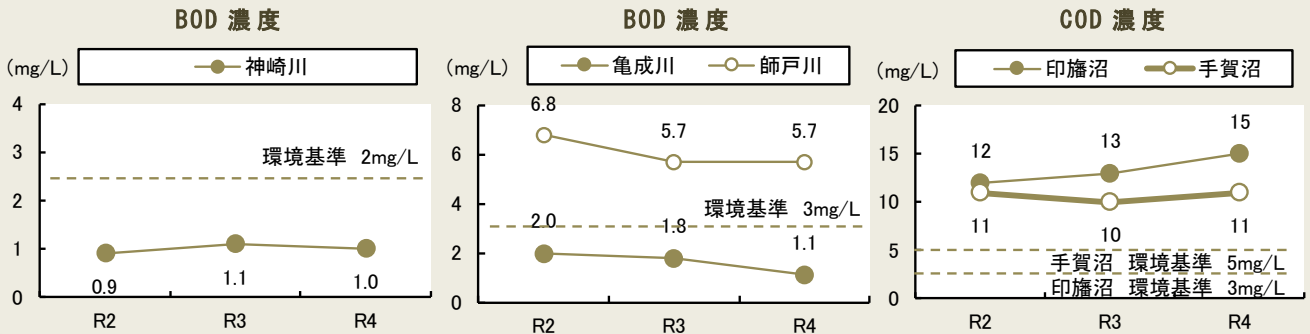


千葉県が設置する一般環境大気測定局（高花地区）では、大気質の測定を実施しています。二酸化窒素（NO₂）や浮遊粒子状物質（SPM）は環境基準を達成している一方、光化学オキシダントは環境基準を達成していません。市では大気汚染の原因の一つである自動車からの排出ガスを抑制するため、環境にやさしい運転「エコドライブ」の普及を推進しています。

●水・土壌環境の保全

● 河川のBOD濃度
湖沼のCOD濃度

師戸川・印旛沼・手賀沼で環境基準を超過



河川のBOD濃度は、市が実施した水質測定の結果を示しています。水質汚濁防止法の規定に基づく、公共用水域の水質測定点とは異なります。

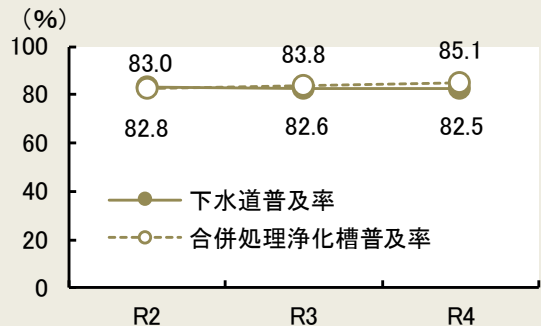
市では、市内9河川で年4回の水質測定を実施しています。そのうち神崎川と亀成川のBOD濃度は目標を達成したものの、師戸川は目標を達成できませんでした。また、印旛沼と手賀沼の水質は依然としてCOD濃度が環境基準値を大幅に超過しています。

水質改善のために、公共下水道の整備や整備済み地区の水洗化、合併処理浄化槽の設置補助に取り組むとともに、関係機関と連携を図りながら、改善に努めています。

● 下水道普及率

● 合併処理浄化槽普及率

82.5% 85.1%

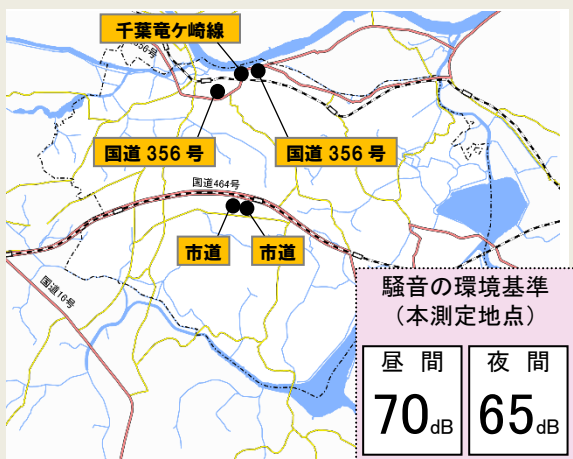


●騒音・振動・悪臭の防止

市では、主要幹線道路において定期的に道路交通騒音の調査を実施しています。

令和4年度の道路交通騒音の測定地点は、国道356号(2地点)、千葉竜ヶ崎線、市道(2地点)の5地点を対象として実施しました。その結果、調査全地点において環境基準を達成しました。

● 道路交通騒音の測定地点



調査全地点で環境基準値を達成したよ!



印西市環境キャラクター
エコネ



定期的に空間線量率 ▶
を測定しています

有害化学物質対策の推進

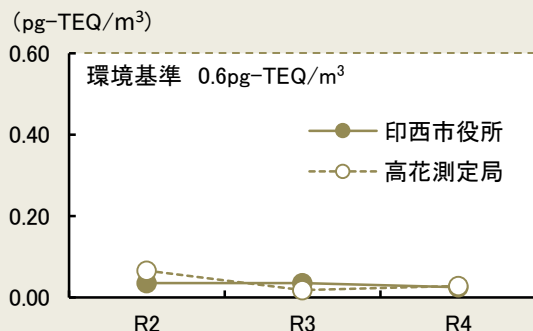
私たちの生活は様々な化学物質に囲まれており、そうした化学物質は暮らしを便利で快適にする一方で、適切に管理されないことで人の健康や動植物に悪影響を及ぼすものや、廃棄物の焼却過程などでダイオキシン類を発生させる有害なものもあります。

●有害化学物質の適正管理

市では、大気中のダイオキシン類濃度を定期的に調査しており、令和4年度はいずれも環境基準を達成しました。

● 大気中のダイオキシン類濃度

環境基準達成



●放射性物質に対する安全・安心の確保

市では東日本大震災当初から引き続き市内194箇所の公共施設等で空間線量率の測定を行い、結果を広報や市のホームページ等で公表しています。空間線量率は年々低下しており、令和4年度は、国が示す基準値0.23μSv/hを超える箇所はありませんでした。

アクション!

環境に負荷を与えず、安全・安心に暮らすために...

- 食器等を洗う際には、洗う前に油分や汚れをふき取り、汚水を出さないように努めます。
- 環境にやさしい石鹼や洗剤を使用し、適量を心がけます。
- ピアノ、カラオケの使用やペットの鳴き声、照明など、近隣に配慮します。
- 除草剤はなるべく使用せず、殺虫剤・殺菌剤も必要以上に使用しません。

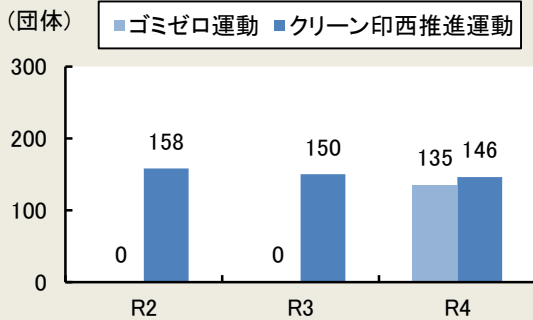
不法投棄やポイ捨ての 抑制・防止対策の推進

●環境美化活動の推進

市では、環境美化意識の高揚を図るため、市民団体や事業者と協力して、年1回の「ゴミゼロ運動」、毎月1回の「クリーン伊西推進運動」などの活動を実施しています。ゴミゼロ運動は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い令和2・3年度は中止となりましたが、令和4年度は3年ぶりに開催されました。令和4年度の参加団体数は延べ281団体、参加者は延べ32,337人、合計34,440kgのごみが回収されました。

●環境美化活動の参加団体数
ゴミゼロ運動 クリーン伊西推進運動

135 団体 **146** 団体



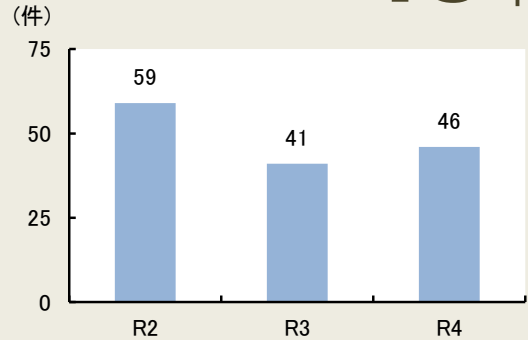
▲ クリーン伊西推進運動を実施

個人のモラルに関わる問題でもあるポイ捨てについては、一人ひとりが美化意識を向上させることが重要です。市では、歩行喫煙、ポイ捨て等防止条例の適正な運用を図り、環境美化意識の向上を図っています。重点区域での啓発やパトロールを実施し、禁止行為の指導件数は112件、過料件数は0件でした。

●不法投棄の未然防止

●市民からの不法投棄通報件数

46 件



令和4年度に市が把握した不法投棄確認件数92件のうち、46件は市民からの通報によるものでした。市民の皆様による監視の目が**不法投棄の抑止・発見**につながっています。

92件の内訳をみると、家庭ごみが最も多く(31件)、家電製品なども多くなっています。

市では、パトロールの実施や監視カメラの設置により、不法投棄の防止に努めています。

< 令和4年度の不法投棄物内訳 >

- 1位 家庭ごみ・・・31件
- 2位 家電製品・・・23件
- 3位 家具・・・8件

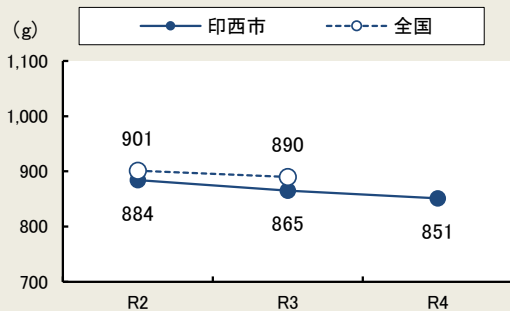


▲ 監視カメラの設置を強化しています

3Rの推進

● 1人1日当たりのごみ排出量

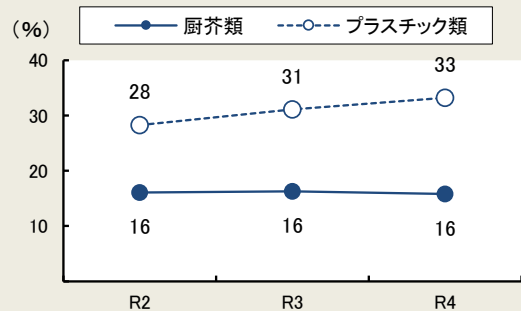
851g



備考) 印西クリーンセンター出典

● ごみ質分析結果 (乾燥重量比)

厨芥類 **16%** プラスチック類 **33%**



備考) 印西クリーンセンターにおいて測定した燃やすごみの乾燥重量比を示しています。

令和4年度の1人1日当たりのごみ排出量は851gとなり、前年度の865gから14g減少しました。ごみ質分析結果をみると、厨芥類は15.8%、プラスチック類は33.2%を占めています。

●ごみの発生抑制

ごみの資源化や適正処理も重要ですが、最も優先されるべき取り組みは「ごみを出さないこと」です。市では食品ロス削減のため、広報や食品ロス削減協力店の募集、フードドライブ事業の周知協力を行いました。また、家庭ごみの減量化を推進するため、生ごみ処理容器等購入費補助金事業や廃棄物減量機器貸出事業を実施しています。

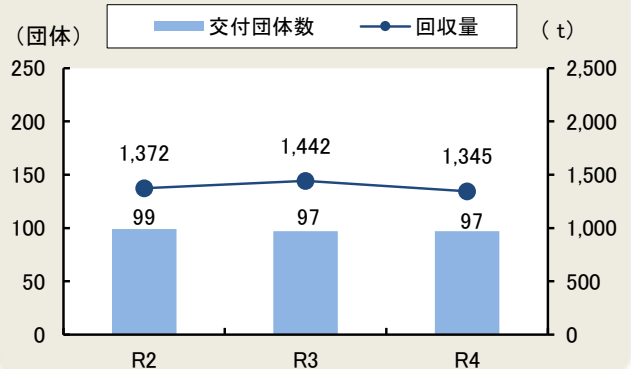
●ごみの分別・リユース・リサイクル

ライフスタイルを転換し、極力出すごみを減量したあとは、出たごみを適正に分別していくことが重要です。令和4年度は出前講座を8回(216人)開催しました。その他にも、「ごみ・リサイクル施設見学会」や「いんざい環境フェスタ」の開催、出前講座など様々な事業を通して、ごみ減量化・リサイクルに関する学習機会の提供に努めています。

市では、資源として再利用できる有価物を集団で回収している町内会や子ども会、高齢者クラブ

などの団体に対する支援を実施しています。令和4年度の有価物集団回収の登録団体数は97団体、回収量は1,345tとなりました。

● 有価物集団回収交付団体数と回収量



ごみ減量化・リサイクルに関する出前講座を実施



アクション!

美しく、快適なまちにするために…

- 「ゴミゼロ運動」「クリーン印西推進運動」など地域の清掃活動に積極的に参加します。
- 不要な商品を購入しないよう努め、商品をできる限り長く使用します。
- 過剰包装を断り、詰め替え製品などのごみの出にくい製品を購入します。

温室効果ガスの排出抑制

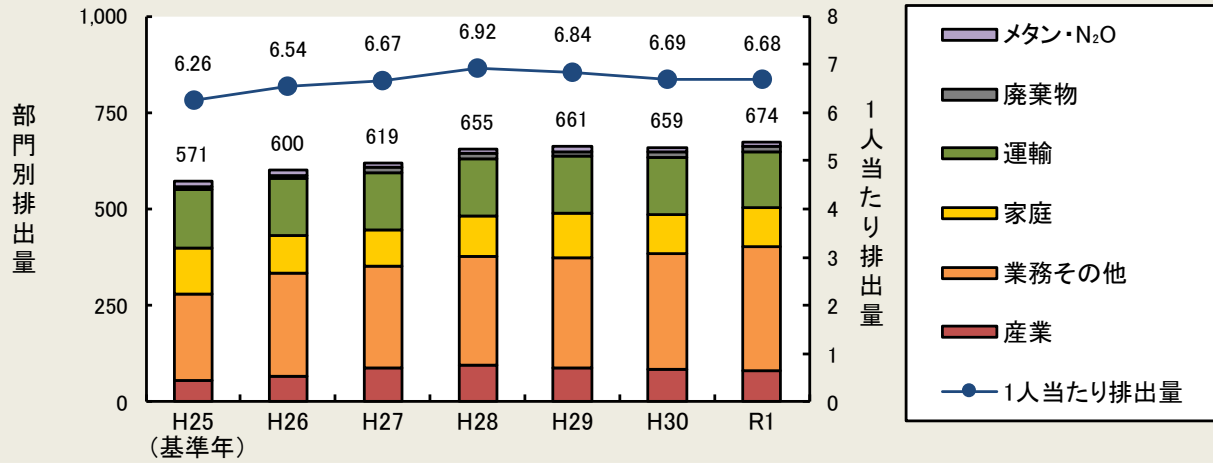
● 年間温室効果ガス排出量（令和元年度）

市域の排出量
(千t-CO₂/年)

674 千 t-CO₂

市民
1人当たり
(t-CO₂/年)

6.68t-CO₂



印西市域における令和元年度の温室効果ガス排出量は、合計で673.7千t-CO₂となり、基準年度（平成25年度）値と比較して増加しました。なお、1人当たりの排出量は平成28年度以降減少傾向にあります。

本市の温室効果ガス排出量を部門別にみると、業務その他部門の排出量が最も多く、全体の約5割を占めています。業務その他部門に次いで運輸部門、家庭部門の排出量が多くなっています。

●省エネルギーの推進

市では、広報やホームページを利用して、環境家計簿の普及に努めました。環境家計簿は、家庭における光熱費やエネルギーの使用状況を把握することで家庭から排出される二酸化炭素量をチェックし、**省エネ意識**を育むものです。

また、地球温暖化防止に向けて、住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金を通じて家庭における省エネルギー設備等の導入促進を図っています。令和4年度印西市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金の補助件数は245件でした。

●再生可能エネルギーの利用促進

令和3年度における市の**再生可能エネルギー**の導入容量累積は、太陽光発電（10kW未満）が21,502kW、太陽光発電（10kW以上）が75,034kWとなり、増加傾向にあります。

市では、県による太陽光発電設備・蓄電池共同購入支援事業の広報支援を行い、再生可能エネルギーの導入促進を図りました。

●環境に配慮したまちづくりの推進

令和4年度は、ふれあいバス6ルートを運行するとともに、宗像路線の実証運行を継続しました。

また、公共交通の利用促進に繋げることを目的として、市内全域を網羅した印西市総合公共交通マップを作成しました。

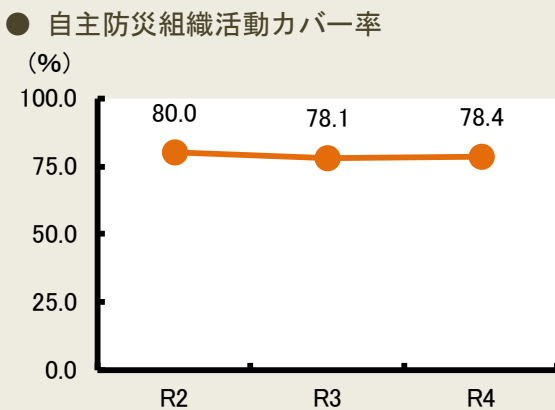


公共交通の利用促進が二酸化炭素の排出抑制につながります

気候変動への適応

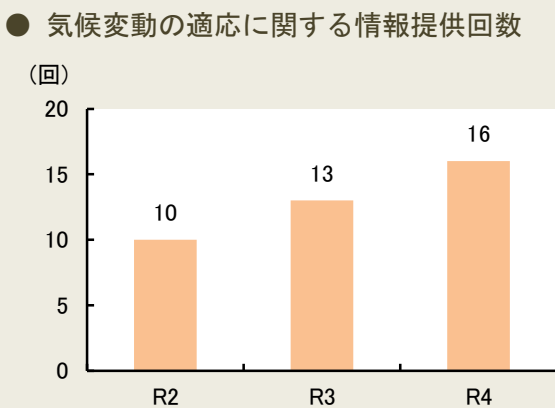
●気候変動の影響への対策

市では、地域防災力強化や発災時の被害軽減に向けて、自主防災組織結成促進について、広報やホームページを通じて防災情報の提供を行いました。令和4年度の自主防災組織新規結成数は2組織となりました。また、広報やホームページなどで熱中症の注意喚起や熱中症対策に関する情報提供を行いました。



●気候変動の影響に対する理解促進

市では、市域における気候変動の影響について、継続して情報収集し、市民・事業者への情報提供に努めています。令和4年度の気候変動適応に関する情報提供回数は16回となりました。



市の率先行動の推進

庁内エコプラン(地球温暖化対策実行計画)に沿って、公共施設におけるLED照明の導入などに取り組んでいます。市が率先して脱炭素社会の実現に向けた取組を実施することで、市全体のエネルギー消費量削減を図っていきます。

●公共施設における脱炭素化の推進

市の施設では、再生可能エネルギー設備の率先的な導入を推進しており、市役所本庁舎(10kW)のほか、松山下公園総合体育館(10kW)や、大森小学校(10kW)、内野小学校(20kW)、牧の原小学校(45kW)、船穂コミュニティセンター(11kW)に太陽光発電設備を設置しています。今後も、公共施設の新築時や大規模改修時における再生可能エネルギー設備の新規導入を推進していきます。



▲ 市内公共施設に設置された太陽光発電設備

●エコオフィスの推進

庁内エコプランに基づき、市職員に対する省エネルギーの取組の周知徹底を図りました。令和4年度は庁内環境セミナーを2回実施し、地球温暖化対策に係る職員の意識醸成を図りました。

公用車の購入にあたっては、次世代自動車をはじめとする環境性能に優れた自動車の導入に努めました。

アクション!

地球環境を守るために・・・

- 「環境家計簿」などを通して電気、ガス、水道、ガソリンなどの省エネルギーに努めます。
- 太陽光発電システム・蓄電システムなどの再生可能エネルギー設備の導入を検討します。
- 外出の際には徒歩や自転車、公共交通機関を利用し、自家用車の利用は控えます。

自ら学び行動する人づくりの推進

様々な環境問題を解決していくための第一歩は、一人ひとりが環境の現状を知り、日常生活との関わりを認識することです。市では、市民・事業者が地域の環境や環境保全活動に関心を持てるよう、環境講座・イベントなどにおいて普及啓発を図っています。

将来の印西市を担う子ども達への環境教育の推進を図るため、教育センターでは環境に関する講座を実施し、多くの親子に参加いただきました。小中学校の図書室では宮下文庫の中で環境教育に関する蔵書の紹介や活用に関する支援を行いました。

また、市民の学習ニーズや年齢層に合わせて、環境をテーマとする市民アカデミーや出前講座の実施を推進しています。

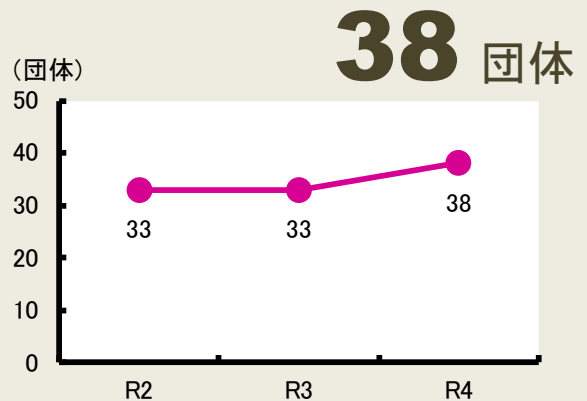


▲ 中央公民館が主催で「手賀沼講座」を実施

環境配慮行動の推進

市では、市民・事業者・市が協働し、様々な立場から意見交換をする場として印西市環境推進会議を設置しています。令和4年度は環境推進市民会議を9回開催し、協働による湧水・河川水質調査やイベントにおける環境行動指針の啓発活動などを実施しました。

● 環境活動団体数



市内で活動している環境活動団体数は 38 団体となりました。

今後も、環境保全活動に取り組む NPO・市民活動団体などを積極的に支援するとともに、様々な主体の連携を図っていきます。

アクション!

みんなで環境を育てるために・・・

- 環境に関する講演会や体験会、見学会などに積極的に参加し、環境の現状を理解し学びます。
- 環境に関して得た情報を家族や友人と話し合い、実践につなげます。
- 環境保全を図る NPO などの市民活動団体に積極的に参加します。

もっと！知りたい人は

「令和5年度版 印西市環境白書 本編」
「第3次印西市環境基本計画」
をご覧ください。

行動してみたい人は

「印西市環境行動指針」
日常生活の中の環境配慮行動を掲載しています。

「広報いんざい」

環境に関するイベントや講座開催をお知らせしています。

令和5年度版 印西市環境白書(概要版)

令和6年3月発行

発行:印西市 環境経済部 環境保全課

〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2

TEL:0476-33-4491

<https://www.city.inzai.lg.jp/>